

東与賀

higashiyoka

文責 田中泰司

佐賀市立東与賀中学校

令和八年度入学式が 挙行されました

雨模様のお天気、名残の桜が舞い散る中で多くの来賓をお招きして四月九日、令和八年度入学式を挙行しました。

東与賀小学校から七一名の新入生を迎え、全校生徒二〇三名で新しいスタートを切りました。

真新しい制服に身を包み、少しはにかみながら入場する姿に新たな仲間を迎え入れる喜びを実感しました。式辞で話した内容は後述します。真剣で真つすくなまなざしで一生懸命に話を聞いている新入生の姿に、中学生としての自覚が強く感じられ、今後共に活動していくのが本当に楽しみで仕方ありません。



「歓迎の言葉 生徒会副会長 生徒会副会長 竹藤 愛依さんより」

新しい場所で大きな第一歩を踏み出す皆さんを迎えることができ、とても嬉しく思います。皆さんの表情を見ると入学した時のことを思い出します。これから

の新しい学校生活に期待や不安、喜びなど様々な気持ちを抱いていることは皆さんも同じでしょう。わからないことや不安があれば私たち先輩や、先生方をぜひ頼ってください。

この東与賀中では『学び合い』をしています。仲間と関わり合いながら分からないことを分かるようにしていきます。「誰一人取り残さない」を合言葉にみんなで分かることを目指して目標を達成していきます。たくさんの人と関わるので授業は眠たくありません。七一人の仲間を大切に失敗を恐れず様々なことに挑戦してみてください。その一つ一つがかけがえのない宝物になることでしょう。

◇後輩の不安を一掃する、自信とおもいやりの心が溢れた、素晴らしい歓迎の言葉でした。

「誓いの言葉 沖石 愛梨さんより」

小学校と比べ学習内容が難しくなり、定期テストなど不安なこともあります。学校行事や部活動などの新しいことに胸を弾ませていきます。慣れるまで大変なことも多いと思いますが、先輩方の背中を見ながら良いところをたくさん取り入れ、充実した中学校生活を送って浮きたいです。

戸惑ったり立ち止まったりしたときには、先生方、保護者の皆様、先輩方、私たちのことを温かく時に厳しくご指導していただきますようよろしくお願い致します。

◇「待っていましたよ」と声を掛けたら笑顔で答えてくれました。これから共に頑張りましょう。

「校長の式辞概略」

小学校と中学校は同じ義務教育の学校ですが、大きく違います。中学校は三年間しかありません。大変忙しく、一日があっという間に過ぎていきます。また、誰かから指示されることなく、自分自身の行動を正しく判断できる「大人」として扱われます。今すぐにはいいませんが、皆さん一人一人が「大人」に向かって成長できる、中

身の濃い三年間にしてほしいと思います。最も大切なことが「学ぶ」ことです。皆さんが将来、大人になり、社会の一員として自立した生活をするには、新しい知識や技術、考え方を必要と、常に身に付けていく必要があります。学校での勉強を通して、また普段の生活の中で、疑問に感じたことや、興味をもったことを様々な方法で追究して下さい。生涯に渡って問いを持ち、学び続けることでよりよい未来を自分の手で切り拓いてください。

次に大事なことが「鍛える」です。中学校では、体育大会や修学旅行、文化発表会合唱コンクールなど多くの行事があります。また生徒会活動や部活動をはじめ、周囲と力を合わせて、取り組む活動もたくさんあります。中学三年間の中でしかできない活動ばかりですので、すべてに全力で、積極的に取り組んでほしいと思います。そこから得る経験は、皆さんの心と体を鍛え、大きな自信と、仲間たちとの絆を生み出します。学校で学ぼう一つの大切なことが自分自身を「磨く」ことです。

校長室より

「入学してくれ本当にありがとう」という喜びと感謝の気持ちが溢れた一日でした。早く中学校に慣れて、楽しみを見つけ、のびのびと生活してほしいと思います。

また2・3年生の入学式の準備、そして当日の動きぶりには非常に感心しました。会場のシート敷きは丁寧でこれまで参加したどの学校のシートより美しかったです。

来賓の方からは受付案内の皆さんの気持ちの良い応対を繰り返し褒めていただきました。また、司会、歓迎の言葉には先輩としての挟持（きょうじ）が感じられ、感動的でした。ありがとうございました。心のこもった準備・運営そしてそれを受け止めた新入生の態度、最後の校歌の歌声の大きさと心に響く素晴らしい入学式でした。それは学校として一つの理想的な姿です。これからも学校に関わる全員で未来に向かう新入生東与賀中学校を創造していきましょう。